

活動報告書

報告者氏名：林 正行

所属：京都市立西総合支援学校

記録日：2013年 2月 25日

【対象児（群）の情報】

・学年

高等部 1年生 男子

・障害名

自閉症・知的障害

・障害と困難の内容

自分の予定していた行動や、思っていたことができなかつたりしたときや、予測ができない内容のことに対して不安な気持ちを持つことがある。また、伝えたいことがうまく伝わらなかつたときには不安になったり気持ちがいらだつたりすることがある。

【活動目的】

・当初のねらい

本校高等部では、年に何回かの職場実習がある。その期間、自宅から体験する職場の往復になるが、一人で安心して行動できるよう、また緊急時や連絡が必要な時により適切に連絡が取れるように、タブレット端末(iPad)の活用を考えた。また、互いに顔が見えるアプリを使用し、タブレット端末をコミュニケーションツールとして活用していくことで、コミュニケーションをより豊かにしていけるようになることも考えた。この取組を通して、生徒本人はもちろん、指導者や保護者が安心して実習に望め、さらには卒業後の就労支援にもつながっていくことを目指している。

- ① 高等部の生徒が卒業後、一人で職場に向かたり、外出したりする際の支援ツールとしてタブレット端末を活用する。
- ② 高等部の職場実習でタブレット端末を活用し、さらにはそれをもとに卒業後の移行支援へとつなげていく。
- ③ タブレット端末をコミュニケーションツールとして活用していくことで、コミュニケーションをより豊かにしていけるようになることもめざす。

・実施期間

平成 24年 6月～平成 25年 2月

・実施者

菅原 宣久, 黒田 和信

・実施者と対象児の関係

学部指導教員

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

自分の予定していた行動や、思っていたことができなかつたりしたときや、予測ができない内容のことに対して不安な気持ちを持つことがある。また、伝えたいことがうまく伝わらなかつたときには不安になつたり気持ちがいらだつたりすることがある。

・活動の具体的内容

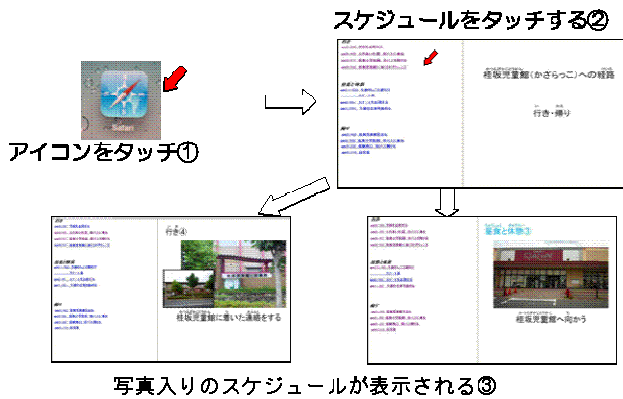
《前期実習：A 児童館（6月25日から27日）》

(1) 内容…移動支援、連絡ツールとして「いまカエル」を使用

(2) 利用アプリ：

- ① 実習の行き帰りの行程(スケジュール)確認→→→→→→→→→→→→→→→→**Safari** で閲覧
 - ・通常のホームページ画面から接続できない学校ホームページサイトを活用
 - ・作成も校内にて HP 管理 PC 上で行う。
 - ・行程をタッチすることで、視覚的にわかりやすいスケジュールが表示される
 - ・視覚支援として写真を利用。写真は Google ストリートビューを活用出来る。
- ② GPS 機能を利用して自分のいる位置を確認→→→→→→→→→→→→→→→→**マップ**の閲覧
- ③ 学校で待機する指導者が、生徒の位置と行動を把握→→→→→→→→→→→→→→→→**Find iPhone**
- ④ 適宜、学校から端末タブレットにメッセージを送る→→→→→→→→→→→→→→→→**Find iPhone**
- ⑤ 実習場所・帰宅・困った時に学校で待機する指導者に連絡→→→→→→→→→→→→→→→→**いまカエル**(※2)
 - ・送ることのできる3つのメッセージは、その生徒に応じて実習担当が考える(使用場面、メッセージの内容など)。また、3回のタッチ操作は携帯等のメール操作より簡単である。

Safari を活用したスケジュールの確認



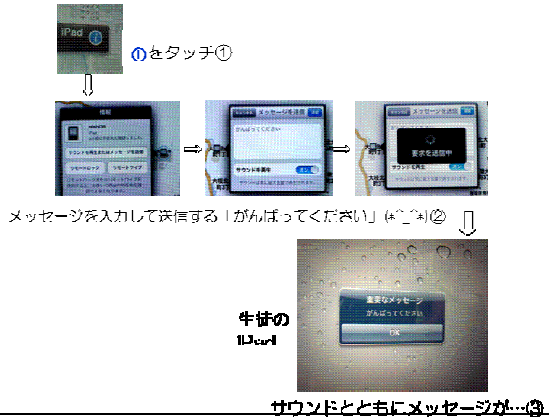
いまカエル で連絡 (3回の操作 3つから選ぶ)



Find iPhone で位置確認 [指導者の iPad]



Find iPhone でメッセージを送る



《後期実習：Bスーパーマーケット1月28日から31日》

(1) 移動支援，連絡・コミュニケーションツールとして **Skype** を使用

(2) 利用アプリ：

- ① GPS 機能を利用して自分のいる位置を確認 → → → → → → → → → → **マップ** の閲覧
- ② 学校で待機する指導者が，生徒の位置と行動を把握 → → → → → → → → → **Find iPhone**
- ③ 自宅を出る・帰宅・困った時に指導者や保護者に連絡 → → → → → **Skype**
- ④ 緊急時など生徒のタブレットにメッセージを送る → → → → → → → → **Skype**
- ⑤ 事前学習で活動内容を手順書で確認する → → → → → → → → → **TalkingBook**
- ⑥ 昼食後の休憩時間や帰宅後，タブレットを活用する → → → → → → → → → **実習日誌** など
- ⑦ 実習時に限らず，様々な場面・時に保護者や担任等とコミュニケーションを取り合ったりする。 → → → → → → → → → **Skype**

※Skype は，互いの顔を映しながら話せるので安心感につながったり，表情を伝えたりすることもでき，よりコミュニケーションの幅が広げられることが考えられる。

また，周囲の景色や様子を映して相手に伝えたり，自分が作業した成果等を映して相手に伝えたりすることができる。

Skype で連絡 (画面タッチは3回。呼び出す相手は顔写真と言葉で)



- ・生徒のタブレットも呼び出し音が鳴る
- ・相手が通話（ビデオボタン）を押せば，顔を見ながら会話
「今，OOについたよ」「そう，がんばってね」……

・対象児（群）の事後の変化
写真入りのスケジュールを見ることで生徒にとって行き・帰りの行動がより安心して確実なものとなった。また，Skype を使用して，連絡等を行ったので，互いの顔を映しながら話せるので本人の実習時，帰宅時等の安心感につながった。また，実習中の休憩時間も iPad を活用することで，安定して過ごすことができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

《前期》

- ・写真入りのスケジュールを見ることは生徒にとって見通しがつき安心して実習等に取り組めた。
- ・「がんばってくださいね」などのメッセージを送ることで，生徒と指導者のコミュニケーションがとれ，両者とも安心して実習ができた。
- ・生徒が自宅で位置情報の更新が途絶えた。生徒は『いまカエル』で帰宅連絡を送信したが，指導者に連絡が来ず，『Find iPhone』で「自宅に着いたら，帰宅連絡をして下さい」とメッセージを送ったものの，届

いているかわからなかった。(要検討)

- ・生徒と指導者とのやりとりを確実にするために、お互いが確認できる通信手段を検討する必要がある。

《後期》（含：1回目の取り組みからの変更点について）

- ・『いまカエル』に代わり、顔の見える『Skype』を用いることに変更した。
（3G回線における facetime は最新の iPad のみ対応のため、今回は活用不可）
- ・Skype は、互いの顔を映しながら話せるので安心感につながった。また、表情を伝えることもできるので、よりコミュニケーションの幅が広げられることが考えられる。
- ・ただし、電源が入っていなかったらつながらないという面もある。
- ・また、周囲の景色や様子を映して相手に伝えたり、自分が作業した成果等を映して相手に伝えたりすることができる。
- ・今後は、実習日誌などをタブレット端末アプリにて作成し、指導者等に送信してやり取りすること等を探っている。
- ・実習時に限らず、様々な場面・時に保護者や担任等とコミュニケーションを取り合ったりすることで、コミュニケーションがより豊かになり、さらに QOL が向上していくことにつなげていきたい。